

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2023 年
7 月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

**生徒たちの言う「むっちゃ良い先生」は、
生徒たちにとって本当に良い先生！？**



「親切、丁寧、分かるまで指導します」

他塾のチラシを見るとこれらの文言をよく目にします。確かに、親切・丁寧・分かるまで指導することはとても大切なのですが、塾の言う親切って、本当に 生徒にとっての親切 な指導なのでしょうか。

今から 10 年以上前、「やっぱりMACの指導方針は間違っていないなあ」と考えさせられる出来事がありました。

今はMACにはアルバイトの講師はいませんが、当時は大学生のアルバイトも授業に入っていました。その中のA君は有名大学に通う大学生。非常に教育熱心で、生徒達のが大好きで、そんな生徒たちのために常に一生懸命！

若くて、イケメンで、熱心に指導してくれるので、当然生徒達にも人気の先生でした。

ある日の小学生の授業で、A先生は算数の「分数」の授業をしていました。

「先生、わから～ん」「先生、教えて教えて～」「先生こっちも！お願いお願い～」

「なにになに、ああ、これはね・・・」

その日も大人気の先生は子どもたちの為にいつも通り一生懸命！親切、丁寧に分かるまで一から十まで解説しながら授業を進めます。慕われている先生なので子どもたちもしっかり先生の授業を聞いています。授業終了後は、

「やっぱり先生の授業はよく分かるわ～！教えるの上手いし、しゃべってて楽しいし、**A先生ってほんまにいい先生やな～!(^ ^)!**」

と子どもたちは口々に話していました。A先生も手ごたえ十分だったようで、

「今日も子どもたちはよく授業を聞いてくれました。みんな良く分かったと言ってくれたので、次のテストはバッチリ結果を出してくれますよ！」と笑顔でした。

そして楽しみにしていたテストの結果は・・・。

なんと散々なものだったのです。A先生はショックを隠しきれません。

「あれだけ長い時間教えて、あれだけうなづきながら『分かった、分かった』と言ってくれたのに、なぜなんですか!？」

それを聞いた塾長は、

「ちょっと教えすぎと違う？あれだけ一から十までこっちが一方的にしゃべったら、生徒達はその時は分かった気になるけど、自分で苦労して答えにたどり着いていないから、解き方・考え方なんてすぐ忘れるよ。次は僕が指導してみるね」

ということで、塾長が「答えを教えない指導」で授業したところ、次回のテストでは生徒達みんながきっちり結果を残してくれたのでした。

生徒たちにとって「本当にいい先生」って、どんな先生？

先述のA先生は生徒達の評判はピカ一の「いい先生」です。当然、生徒達の為に一生懸命で教育熱心なので塾にとってもいい先生であることに変わりはないのですが、「指導方法」の面では、考え直してもらわなければいけない部分がありました。

MACも基本的には「親切、丁寧、分かるまで」は大切だと思っていますし、そのつもりで指導しています。しかし、MACの考える「親切・丁寧・分かるまで」は、他塾や一般的な感覚とは少し違うように感じます。

MACは先述のように「答えを教えない指導」を理念としています。あくまで考え方、解き方は教えるけど、それを使って答えにたどり着くのは生徒本人の仕事です。そのくり返しが、今学んでいる事を定着させ、学んだことが蓄積され、実力になり、後に結果へと結び付くのです。

しかし「答えを教えない指導」は先生のペースで一方向的に進む授業とは違い、生徒自身が自分で頭をひねり、あれこれ工夫しながら、自ら答えにたどり着く必要があるのです。時間がかかる上に、大変に感じるのです。(でもこの方法で無いと、本当の力は身につけません)

つまり、私達はMACなりの「親切、丁寧、分かるまで」の指導方法を行っているのですが、生徒たちの考える「親切、丁寧、分かるまで」とは少し違うのです。

そこで、最近では親御さんにはこのようにお伝えするようになりました。

「MACの指導は『不親切・不自由・不便』です。でもそのような環境が生徒自身を成長させるので、結果的にはこの『不親切・不自由・不便』は、生徒にとって本当は『親切』だと思えるのですけどね。」

A君は優秀なスタッフだったのでこの件以降は自らの指導方法を見なおしたようですが、やはり塾の講師をする大学生は「教えたがり」が多い傾向があり、MACのような時間と手間がかかっても自分で答えに辿りつかせる「答えを教えない指導」に戸惑う人

が多いのです。

このまま大学生を雇っていたら、MACの目指す「自立・自律学習」の力を身に付けさせる指導は難しいな・・・と感じ、それ以降は学生アルバイトを雇わなくなったのです。

MACが育てたい「これからの時代を生きて行ける人」とは

AIが進化し、誰も経験したことのない時代を生きる今の子ども達。そんな子どもたちに我々は何を教えるべきなのでしょう。

よくお分かりの通り、今までの様な「学歴」はもはや何の武器にもなりません。

当然学歴もあって、自ら考える力もある人には関係の無い話なのですが、進学のための勉強をし、学歴は手に入れたけど、勉強したこと（経験したこと）以外には自ら考え対応できないという人は、社会で活躍するのは難しい時代です。

確かに、今巷でよく耳にする「英語」や「プログラミング」のスキルがあれば、近い将来の社会では必要とされると思います。

しかし、時代は信じられないスピードで変化し続けています。

つまり、今必要とされているスキルと、少し先の未来に必要とされるスキルは違っている可能性が高いのです。

そんな変化の著しい社会で必要とされる為には、時代と同じスピードで変化（成長）し続けられる人でなければなりません。

MACの考える、これからの時代を生きて行ける人、それを一言で言うならば

『自ら学び続け、成長を続けられる人』

これからの時代は「今何ができる」「今どんなスキル」がある、ということ以上に、「時代の変化に合わせて、その人自身がどれだけ変わっていけるか（成長できるか）」ということを求められているのだと感じます。

社会人一年目のスタートの段階で、持ち合わせているスキルには差があるかもしれませんが、その後は40年近く社会人として働くわけですから（もう今の時代は50年ですね）。

そう考えると社会人になった時点での差なんて無いに等しいのです。大切なのは、常に自ら学び続け、時代とともに変化し続けられる「伸びしろ」なのです。

面接官はそこを意識して、学生たちを見ています。

昔も今も変わらない原理

このNEWSを書いている、ある言葉をふと思いだしました。

「種の起源」で有名な、英国の自然科学者チャールズ・ダーウィンの言葉です。

『生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。』

それは、変化に最もよく適応したものである』

時代が変わっても、物事の原理は変わらないようです。

MACも塾ですので、試験で良い点が取れるよう日々教科指導をしています。しかし目の前のテストで1回の100点をとることよりも、今は不完全でも将来社会人になってから100点を取り続けられる人を育てよう、という思いで日々指導にあたっています。

長期的にみて本当に役立つ、必要な力を育てるのは一朝一夕ではできませんし、なかなか「成果」というものが目に見えにくいのです。しかし、そこを目指さなければ意味がありません。これからもMACは、表面的な「親切、丁寧、分かるまで」ではない、『生徒たちにとって本当に親切』な指導を続けていきます。

べんきょう なぜ勉強をしないといけないの？

だれ いちど かん ぎもん おも べんきょう
誰もが一度は感じたことのある疑問だと思えますが、あなたはなぜ勉強を
しないといけないのだと思えますか？

せいちょう つづ ひと ひつよう 成長し続ける人でないと、必要とされない

べんきょう てすと しんがく おとな
勉強はテストや進学のためにするのではなく、みなさんが大人になり、
しゃかいじん とき かつやく
社会人になった時に活躍できるようにしているのです。

いま しゃかい すびーど へんか つづ しゃかい
今、社会はものすごいスピードで変化し続けています。そんな社会で
かつやく ため しゃかいじん とき しゃかい へんか すびーど
活躍する為には、みなさんが社会人になった時、社会の変化のスピード
おな はや すびーど じぶん せいちょう
と同じくらい早いスピードで、自分も成長しないといけないのです。

しょうらい せいちょう くんれん いま べんきょう とお わ
将来そんな成長をするための訓練として、今は勉強を通して「分からな
みづか まな れんしゅう
いことを自ら学ぶ」練習をしているのです。

しゃかい で がっこう じゅく おし せんせい
社会に出たら、学校や塾のようにゆっくりじっくり教えてくれる先生は
いません。自分で課題を見つけ、自分で考え、自分でその課題を解決する
じぶん かだい み じぶん かんが じぶん かだい かいけつ
力が必要とされるのです。

まっく せんせい こた おし じぶん
MACの先生が「すぐ答えを教えてくださいませ！じっくり自分で
かんが い りゆう
考えなさい〜！」と言うのは、そういった理由があるのですよ。



いじん めいげん
偉人の名言

い のこ しゅ もっと つよ もっと ちてき
「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なもの
でもない。それは、変化に最もよく適応したものである」

チャーるず だーういん いざりす しぜんかがくしゃ
チャールズ・ダーウィン ～イギリスの自然科学者～

じぶん へや めだ は よ かせ
自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。